

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O174600601		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホームふれあい稲田 1・2 (稲田1)		
所在地	帯広市西13条南39丁目6-33		
自己評価作成日	令和4年7月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600601-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年を重ねるごとに出来る事が少なくなり生活に自信が持てなく消極的になりがちの中で少しの声掛けと手助けで自身で出来る喜びと自分らしい生活が続けられる様に支援を行っています。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で外食等の支援が難しい状況ですがホーム内のゲームや皆で塗り絵などを楽しんでいます。終着のおりには 恒例となっている、ご家族と一緒に楽しめる行事を企画、ご家族との共同で利用者を支えていける関係を築いていきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年9月30日		

当事業所は帯広市郊外の自然豊かな住宅街に位置し、近くには病院やコンビニなどがあり、住環境に恵まれている。母体法人は数々の施設を運営しており、そのうち認知症対応型グループホームも約20カ所程運営している。法人全体で、身体拘束虐待防止委員会を開催したり、近隣の消防署と連携し避難訓練なども行い利用者へ安心、安全な暮らしを提供している。事業所の居室は、トイレ、洗面所、冷暖房エアコンが設置されていて、住環境は設備されている。職員は経験豊富な職員が多く、職員の入れ替わりも少ないため、利用者に安定したケアを提供できている。事業所独自の理念があり、変化に応じて振り返りながら職員からの意見を反映させた理念の見直しをしながらケアの実践に反映している。家族向けのアンケート調査からは満足感と信頼感が見て取れる。また、特に防災に関しては複合災害を想定した机上訓練を行っており、職員全員災害に対する認識が向上しており、災害対策の一つになった感染症についても全職員が研修等を行い即戦力的な対応を兼ね備えるよう日々業務に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。休憩室に掲示し常に意識的に取り入れ実践につながる様に努めている。現状に即した物にするためスタッフ会議の時は皆で確認しあい見直しも行っている	地域密着型サービスの意義や事業所の役割を意識しながら、全職員で作り上げた理念は定期的に職員と話し合い見直しを行っている。理念に添い、常に思いやりのある温かで家庭的な生活を目指したケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	稲田町内会に加入し役員会、廃品回収や清掃活動に参加し町内の方との交流を行っている。町内ごみ拾いには入居者さんもスタッフと一緒に参加した事もあったが近年は新型コロナの影響で入居者さんは参加せず職員のみでの参加となった。	コロナ感染終息後を見据えて、近隣の小学校や法人の託児所とのコラボでハロウィン交流を行う企画を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の懇親会、総会に出席したおりに認知症に対する支援がある事、介護の相談に応じる事、などの発信を行っている。町内の方からの入居申し込みもありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、GHの様子を見て頂きながら行事報告、計画及び事故報告等をし、意見交換を行いサービス向上に努めている。近年は新型コロナの影響で書面にての会議となっている。	2ヶ月毎に地域包括支援センター職員、町内会、民生委員、家族等が参加し行っていたが、今は書面で活動報告している。各委員には事業所の運営状況や行事などの報告書面を送付し、意見や提案を得て運営に暗影させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の問題・疑問等には積極的に市役所に出向き、相談指導を受けている。保健所の研修にも積極的に参加している。新型コロナの対応策などの書面はスタッフ全員で共有し対処に努めている。	管理者は保健所主催の新型コロナ感染対策のビデオ研修会を受けたり、市職員と空き情報医や事業所状況報告等、電話やメール等で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束、虐待防止委員会を設け、又全職員のアンケート調査を実施し、委員会で検討、社内研修にて報告意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。推進会議の際に身体拘束等適正化委員会を開催し拘束のないケアの方法など話し合っていたが今は書面会議となっている。またホーム内研修も行っている。	母体法人が「身体拘束、虐待防止委員会」を設置し年6回開催している。運営推進委員会時に身体拘束等適正委員会も開催している。身体拘束のグレーゾーンについて理解しながら、職員は利用者一人ひとりに適正なケアに繋げるよう努めている。	

グループホームふれあい稲田 1・2 (稲田1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で身体拘束、虐待防止委員会を設置し、又全職員のアンケート調査を実施。委員会で検討し社内研修にて報告意見交換を行っている。委員会は定期的に行いアンケート調査結果を踏まえ特に言葉の虐待については語調・態度・敬語の使い方など勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部講師による社内研修及び外部研修を行っている。成年後見制度を利用されていた入居者さんが退去されたが、この時に得た知識を必要に応じ積極的に取り入れて行きたい。入居の際に説明も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に見学や体験して頂き、提供するサービスの内容を説明し、利用者が安心して生活出来るかを理解納得してから入居していただくようにしている。退去時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている、又ご意見箱を設置し意見を受けている。日頃から入居者やご家族の言葉に耳を傾け良い関係作りにも努めている。お便りで御意見があれば検討しより良いホームを目指している事をお伝えしている。	家族に利用者の健康状態などを電話報告する際に、意見や要望を聴取している。出された意見は職員会議で話し合い、ケアの提供を共有化している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。ホーム長・施設長との個人面談も行いストレスチェック表で評価を行っている。職員の定着率も高い。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、「ストレスチェック表」で職員の状況把握に努めている。会議の中で職員の意見、要望の吸い上げ、出された要望等は運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社で就業規則等を定めている。今年も定期昇給やボーナスのUP、決算手当もあつた。また有給休暇も積極的に取れるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施し、全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加しケアの向上に努めている。特にグループホーム協議会の研修には参加出来る様、勤務表の調整を行っている。		

グループホームふれあい稲田 1・2 (稲田1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくり又相互評価事業により評価を受けサービスのケア向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族による施設見学を行い、面談説明し、本人の要望等を聞き納得・理解されてから入居をしていただくよう努めている。またホームのパンフレットを作成し見学時に手渡しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容等を説明し、要望等に対して出来るだけ希望に添うように努めている。ホームの出来る具体的なサービスを提示し了解を得る様にしている。また1日、1週間のホームの流れを説明しその中で要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分出来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい生活をしていただける様努めている。それぞれの力量に合わせゴミ出し、掃除、調理等その場で出来る事を手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が希薄にならず訪問をして頂ける様、開かれたホームを目指している。、又月1回のおたより等で利用者の現状報告し親密な関係を築く様努めている。行事の時は家族の参加もあったが近年は新型コロナの感染防止のため面会の自粛をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方にとっても訪問しやすいオープンなホームを目指している。昔、住んでいた町内の方や宗教関係の方の面会もあった。また最近はやった近くのお寺に永代供養をお願いする支援を行った。最近ではコロナの影響で外出や面会の制限をさせて頂いている。	コロナ禍のために外出は自粛されているが、病院通院時に車窓から自宅近辺や馴染みの場所に行く等で記憶が途切れないよう支援している。大正琴のボランティアが訪問を継続しており、馴染みの関係を継続している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉 じこもりを少なくし、出来るだけリビングでの生活 を多くしてお互いに支え合える環境作りに努め ている。音楽やゲームなど共通の趣味を持たれ ている方に場所の設定やビデオで音楽を聴いて 頂き利用者同士の会話が弾む様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通 じて相談、支援に努めている。退去された方の 面会も行っている。また管理者の方との話し から今後の支援、対応に向けてのより良い方向 性を話し合ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して いる	利用者の尊厳を重視し、希望、意向を見極める ように努め、困難な場合はケース会議及び家族 の意見も聞き対処している。	利用者と日頃から話すことで、一人ひとりの希 望や意向を把握するように努め、職員間で共有 している。意思疎通が難しい方には、反応を見 て判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	利用者の馴染みの家具、什器類等を利用し、出 来るだけ生活環境の変化が少なくしている。ご 家族には本人の趣味、嗜好等の情報を仔細に 聞き寄り添える様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する 能力を発揮してもらえる様に努めている。主に 男性入居者さんにはゴミ出し、女性の方には テーブル拭き、タオルたたみなど力量に応じお 手伝いをお願いしている。」		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら、スタッフ全員で モニタリングを行い現状に即した介護計画を作 成し入居時の状態を維持、または向上を目指し ている。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもと に、職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、 支援を行っている。介護計画の見直しは6ヶ月 毎に行っており、身体状況の変化やモニタリ ング結果をもとに、見直しを行い新たな介護計 画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフ 全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等 に活かしている。日々の変化は業務日誌に特 記事項として職員間で情報の共有を行って いる。スタッフ連絡ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支 援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応するよう 心がけている。訪問マッサージ利用など検討を 行っている。		

グループホームふれあい稲田1・2（稲田1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	精神科Drの判断により週1回のデイサービスを利用されている方ご家族の方と一緒に地域のお茶会に参加されていた方がいらっしゃったが昨今は新型コロナの影響でデイサービスやお茶会の参加は中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が従来のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応し、必要に応じて家族に代わってスタッフが通院に付き添っている。訪問診療を希望されているご家族には情報交換を密にし利用者・家族・病院の橋渡しを行っている。訪問記録簿を作りスタッフ全員とも共有している。	かかりつけ医への受診は基本的に家族が行なっている。必要等に応じて文書にて本人のホームでの状況について医師に伝えている。又家族ができない場合には、職員が同行し受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている。また、看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受け入れるよう24時間対応で支援している。毎週の看護記録を利用し相談したい事を書きとめ看護師と共に入居者の健康維持を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ体制を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。近年は面会ができないため電話等で退院後の生活指導を受けアプラン見直しを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い説明をし、お互いの方針を共有し支援に取り組むようになっている。訪問診療と連携し看取りを行っている。終末期については職員のチームワーク作りを重視する様、努めている。	利用時に重度化した場合の対応について契約時に事前に本人、家族に説明を行い同意の上了解を得ている。医師や訪問看護師、家族・職員が連携協力し安らかな看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当等については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。また消防署での避難訓練に参加しスタッフ全員に周知徹底を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。またホームに災害時用の飲料水・ストープ等を備蓄し緊急持ち出し品も準備、定期的に点検も行っている。	消防署の協力を得ながら年2回の防火防災訓練実施している。また、災害机上訓練も実施しながら災害へのイメージトレーニングを実施している。冬季間ブラックアウト想定時で、雪の活用で排水用の水や湯たんぽ用の水として活用などで、災害時の対応を全員で考えている。	コロナまん延により、感染症も災害の位置づけとなるため、感染症初期対応情報管理や行政との連携、業界団体との協力等処々の問題を再点検しながら、施設独自の危機管理を向上するようなマニュアル作成を期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉づかいには十分に気をつけた対応を日頃から心がけている。耳の遠い方も多く、ともすると大きな声になってしまうが語調、態度・敬語の使い方に注意し耳元で伝えるよう心掛けている。	利用者それぞれに合わせて、誇りやプライバシーを損なわない声かけ、対応を心がけている。トイレ誘導や入浴時など、傷つけないように利用者に優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に見合った選択の場を設け、希望が叶うよう働き掛け、利用者本位の生活援助に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	新型コロナの影響で外出が規制されている昨今で室内にくすぶりがちですが塗り絵をしたり皆で昭和の歌や童謡を歌ったり楽しめる工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、又身だしなみについては個々の希望により気に入ったものにするように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事でなく、週に1度は利用者の希望に応じて献立をしている。又、個々の能力にあった食事の準備、テーブル拭き、お盆拭き等を手伝って頂いている。「ありがとう」の言葉だけで「私にも出来る事があったね」と喜んで下さる方もいらっしゃる。	母体法人より食材と献立が提供されている。職員が利用者の好みやバランス、季節感に配慮した食事を一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。利用者の状況に応じ、下ごしらえや後片付けを職員と行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量、栄養バランスに配慮している。水分量についても脱水にならないよう個々にチェックしている。お粥、刻み食、トロミ食の対応で食事摂取出来る様、配慮している。管理栄養士の指導の元、栄養バランスに心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事後一人一人本人の能力に合わせて支援を行っている。いつまでも自身の歯で食べる事が出来る様、訪問歯科を利用、指導を仰いでいたがコロナ渦の為現在は中止している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、本人の尿意、間隔等を把握し、トイレ誘導や状態に合わせて下着、リハビリの使い分けを行いながら自立に向けた支援を行っている。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	

グループホームふれあい稲田 1・2 (稲田1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ繊維質の多い食材に配慮している、又個々の身体に応じ運動をし健康状態を保つよう支援している。Drとの連絡を密に取り下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応入浴日を定めているが、個々の体調等に配慮しながら、利用者の希望に添った対応に心掛けるよう支援している。時には入浴日以外でも希望があれば対応。スタッフの判断で入浴される時もある。	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望に合わせていつでも入れるよう支援している。必要によりシャワー浴・足浴・部分清拭での対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、休息、安眠できるよう支援している。日中の運動量が増える様にラジオ体操を行っている。入眠出来ない方には夜間、暖かい牛乳の提供や時には話し相手になり不安解消に努める事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、服薬に対する症状を把握し変化のある場合は主治医に相談するようにしている。体調変化に応じご家族、Dr、との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活が出来るよう支援している。希望される方には個別におやつ、飲み物など渡している。リビングで一緒にビデオを観たりゲーム、など楽しむ機会を多く作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添って散歩、買い物、受診等で外出支援をさせて頂いていたが昨今は新型コロナの影響でご家族の面会も制限があり思うような外出支援は出来ていません。終息後には積極的な外出を目指しています。	コロナ禍により外出やイベントは自粛しているが、病院受診時に少し遠回りをして景色を見たり、施設の廻りの外出をする等、外気浴を浴びながら少しでも気分転換やストレス発散に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いについては基本的に個人が管理することとしているが、個々の能力に応じて金銭管理の困難な場合はホームで管理支援している。ヤクルトなどの販売に自身で選ばれ購入される方や化粧品を買われる方もいらっしゃる。		

グループホームふれあい稲田 1・2 (稲田1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話については本人の希望に応じいつでも連絡可能な様にしている。電話器の近くにご家族の電話番号表を提示し、いつでも気軽に話しが出来る様に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分についてはいつも清潔にし、又採光が十分に取れるよう配慮し、季節の花を飾る等居心地に良い共用空間づくりに勤めている。観葉植物など緑は欠かせない様にしている。消臭、消毒を兼ね毎日、居室、リビング、トイレの清掃を行っている。居室には自身で書かれた塗り絵等、飾られている方もいらっしゃいます	共用空間は、温度や湿度に配慮し、定期的な換気を行い、テーブルなどの消毒を行って利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。利用者と職員の手作り作品が飾られ、季節が感じられる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、会話を楽しめるようにしている。花札・かるた・トランプ等、遊べる物も用意しそれぞれ楽しまれている。また、1人でも楽しめる様にジグソーパズルなども用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、今までの生活と変化が無いよう配慮し居心地良く暮らせるようにしている。個々の思考を尊重し仏壇・位牌など自室に置かれている方もいらっしゃる。	居室にはトイレが設置されている。利用者がこのグループホームで不安なく安心して暮らせるように、今までの自分の生活が続けられるように馴染みの家具や家族の写真等を持ち込み、居室の雰囲気作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせて、入居者が安心出来る空間作りを心がけている。個々の状態の変化に応じ家具の配置を変えず、転倒防止に努めている。車椅子使用の方が動きやすい様、空間を広く取っている。		